

東大和市学校施設長寿命化計画(案)抜粋

6 長寿命化等の取組み

(1) 改修等の実施計画

当面 10 年間の学校施設の更新計画について、財政負担の平準化を考慮し下記のとおり定めます。令和 3 年度及び令和 4 年度は、「東大和市立小・中学校再編計画」を踏まえ、第九小学校の第七小学校への統合を図るための準備期間とし、具体的な事業の実施は令和 5 年度から進めてまいります。また、統合先の学校は、建替えを前提に計画しています。

		☆基本設計	△実施設計	○工事着手	◎工事完了	(年度)					
	整備手法	R3 2021	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030
第七小学校	建替え			☆	△	○	◎				
第六小学校	長寿命化改修				☆	△	○	◎			
第五小学校	建替え					☆	△	○	◎		
第二中学校	長寿命化改修						☆	△	○	◎	
第二小学校	長寿命化改修							☆	△	○	◎
第一小学校	長寿命化改修								☆	△	○
第四小学校	長寿命化改修									☆	△
第一中学校 又は 第五中学校	建替え										☆

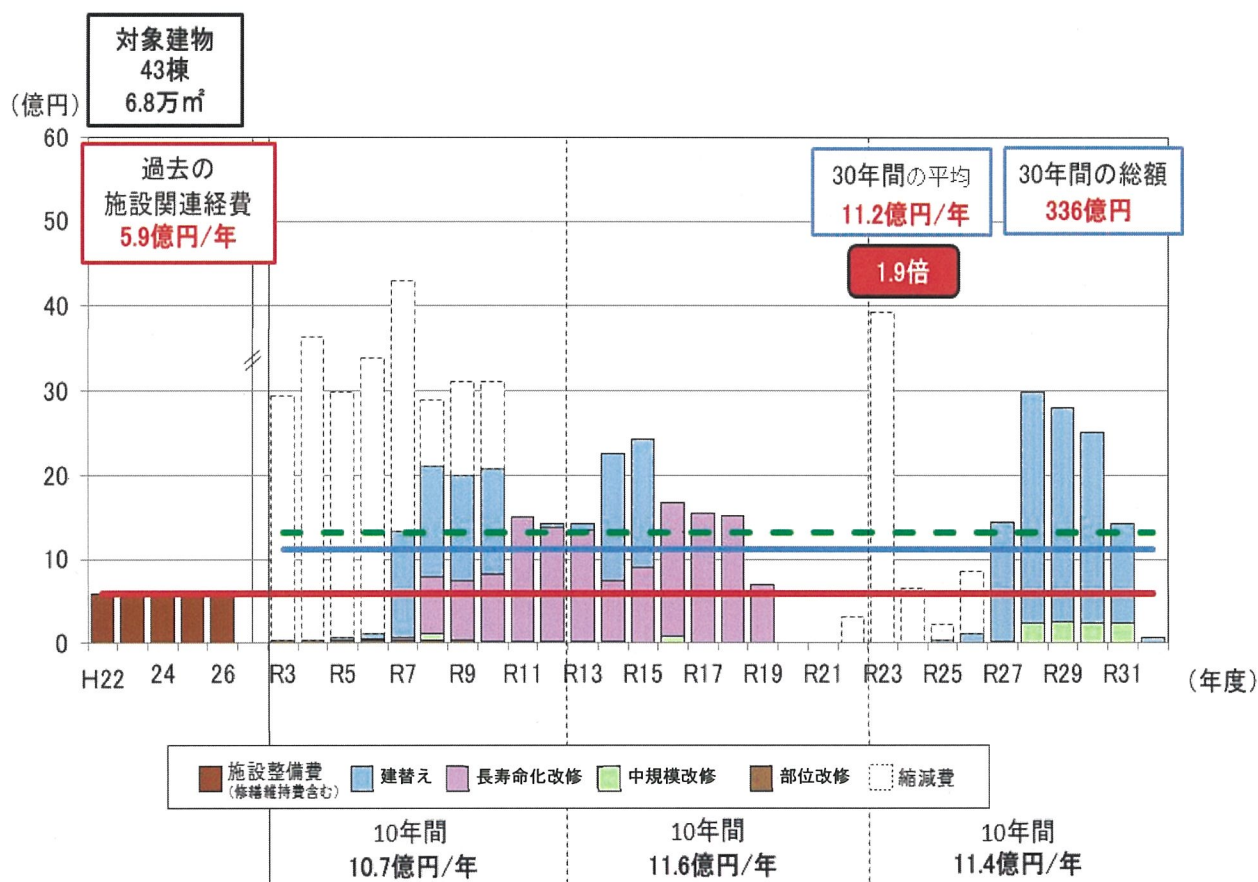
※ 第一中学校及び第五中学校の統合については、今後の「東大和市立小中学校再編計画」の見直しに合わせて計画を定めます。

なお、長寿命化改修を計画している学校においても、基本設計時における躯体の詳細調査において、長寿命化を図ることが期待できない場合や公共施設の複合化において、既設施設の規模等では対応が難しい場合は、建替えの検討も行ってまいります。

(2) 小・中学校再編計画を踏まえた維持・更新コスト（長寿命化型）

ここまでの、従来型の建替えにおける30年間の必要経費、また、その縮減と平準化を図るための長寿命化に係る経費について試算しました。ここでは、小・中学校再編計画を踏まえ、学校を全12校とした場合の長寿命化に係る経費を試算しました。今後30年間における必要経費は336億円で更に70億円の削減効果が得られることとなります。しかし、ここまでの削減を図っても、これまでの投資的経費と比較して未だ1.9倍の乖離があります。教室数の関係等からこれ以上の削減は難しい面があります。計画では経費を一律的に当てはめ算出していることから、実施においては精査し抑制していくことが重要であるとともに、更にその乖離を埋める対策を講じる必要性があります。

小・中学校再編計画を踏まえた維持・更新コスト（長寿命化型）



(3) 付帯施設に係る維持・更新の考え方

コスト試算にあたっては、体育館、プールについても現状を維持または建替えることを前提としています。一方で、プールについては、設備も含めて劣化が顕著であり、改修費や維持管理費など多額の経費が見込まれることから、今後はプールの共同利用や民間プールの活用など利用方法の見直し検討を進めていきます。

(4) 公共施設との統合（複合化・集約化）

計画の実施にあたっては、「東大和市公共施設再編計画」に則り、周辺の公共施設との統合（複合化・集約化）を進め、総合的に維持・更新コストと投資的経費の乖離を埋めていくことが必要です。